

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度

令和元年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立緑第一障害者地域活動支援センター
指定管理者名	特定非営利活動法人湘北福祉会やまのべ
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで(5年間)
施設設置条例	相模原市立緑第一障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、相談支援を行い、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の供与を行い、もって障害者の福祉の増進に寄与する。(条例第2条)
施設概要	開館時間:午前9時30分から午後6時まで 休館日:日曜日及び12月29日から翌年の1月3日まで 年間開所日数:309日 施設延床面積:312.78㎡ 主な施設:1階 フリースペース、作業スペース、相談室、静養室、台所、ダイニング、浴室、脱衣室、事務室等 2階 管理スペース(和室)
施設所管課	健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計(人)	3,537	3,776	3,758				
利用料金合計(円)	856,334	755,064	570,408				
収入総額(円)	30,814,059	26,979,029	29,198,522				
支出総額(円)	29,079,084	26,038,246	25,689,799				

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
S	目標値に対して、高い実績値となっており、音楽サークルや外部講師を招いてのピアセッションなど様々なプログラム活動の実施や面接・電話相談の他に同行及び訪問の支援を行った結果であると考えられる。引き続き、利用者に必要な支援を行って欲しい。

指標1

指標名(単位)	利用者総数 単位:人 平成30年度まで:開所日1日当たりの平均利用人数 単位:人
指標式と指標の説明	施設に通所し日中活動等への参加や、障害者の不安を解消する総合相談事業の利用により、障害者の地域における自立した日常生活や社会生活の促進が図られるため、利用者総数(年間延べ通所者数+総合相談延べ人数)を成果指標とする。 平成30年度まで:年間延べ通所者数÷開所日数

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(単位)	16.5	17.0	5,000	5,100	5,200	5,300	5,400
実績値(単位)	11.5	12.2	5,800				
達成度(%)	69.8%	71.9%	116.0%				

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	事業計画等に基づき、相談支援事業及び地域活動支援センター事業は、適正に実施されている。特に地域イベントへの参加や管理スペースの自治会等への貸出しなど、利用者が地域住民と交流する機会の創出に力を入れており、社会参加を促す取り組みとして評価できる。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
基本相談支援	通年	電話相談、面接相談、メール、同行・訪問、ケース連携 相談件数合計2,042件	
計画相談支援	通年	サービス利用支援及び継続サービス利用支援 相談件数合計105件〔指定相談支援（計画相談、地域移行支援、地域定着）〕	
地域相談支援	通年	地域移行支援及び地域定着支援 相談件数合計上記のとおり	
生活支援事業	通年	食事提供、プログラム活動等 延べ参加人数 3,758名 生産活動 請負作業、自主製品の製作販売 年間233日 延べ参加人数 2,175名	
地域交流事業	右記のとおり	ほのぼの100人運動会(9月29日) 相模原市立桂北小学校体育館で開催 参加者数 約120名 利用者及び職員が実行委員、事務局として関わる。 緑センターやまのべ祭り(12月21日) 模擬店、落語、音楽演奏等 センターの利用者が運営に携わり、当日は他福祉関連事業所の利用者や職員、地域住民等と交流する。参加者数 約110名	
情報提供事業	通年	緑センターやまのべだよりの発行 月1回 ホームページでの情報提供 随時 関係機関からの催事、講演会等の情報掲示 随時	
就労支援事業	通年	障害者雇用 清掃スタッフ 館内清掃 年間96回 延べ151名 調理スタッフ 昼食調理補助 年間27回 延べ27名 利用者の施設外就労に向けての支援	
ピアサポート	通年	ピアサポート養成研修 年間3回 延べ61名 ピア活動 年間4回 延べ44名 ピアセッション 年間10回 延べ92名	
交流できる場の提供	通年	フリースペース 延べ3,758名 管理スペースの活用(四つ葉会(家族会)、自治会の定例会への会場として提供)	

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
	自主事業なし		

5 利用者の満足度

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
B	目標値を達成しているが、他の設問を含め回答の選択肢の中に「どちらともいえない」を設定しており、その選択肢に回答が集中している設問も数多くあるため、より明確な利用者ニーズを把握するため選択肢について検討してはどうか。なお、「施設の使いやすさ」や「職員の対応」については概ね高評価となっており評価できる。

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	令和2年3月末の登録者へアンケートを配布（郵送及び手渡し）
目標値の基準	「全体を通して、当センターに満足していますか？」の問いに対する5段階評価のうち「大いに満足している」「満足している」「どちらともいえない」と回答した方の割合の合計

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	91.1	91.7	92.3	/	/	/	/
実績値（％）	91.3	85.2	92.1	/	/	/	/
達成度（％）	100.2%	92.9%	99.8%	/	/	/	/

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
施設運営協議会	6月	地域の関係機関からの意見を幅広く聴取する場として運営協議会を開催
利用者ミーティング	月1回	月1回開かれる利用者とのミーティングで運営内容や施設側の対応に関する課題も取り上げている。
意見箱	通年	随時面談にて利用者の意見、要望を聴取するが補完として意見箱を常設している。

6 施設の経営状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
S	小規模の経営体であるが、指定管理事業支出の3か月分の現預金を有している。資金流動性は良好であり、自己資本比率は高い。経営上特段の課題はない。

施設の収支概要		直近3年間について記載		
		（千円）		
項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度
収入（a）		30,814	26,979	29,199
	指定管理料	23,508	22,610	25,581
	利用料金収入	856	755	570
	生産活動収入	909	1,030	1,124
	その他の収入	5,541	2,584	1,924
支出（b）		29,079	26,038	25,690
	人件費	21,759	19,805	19,297
	本社管理経費	6,700	5,666	5,688
	生産活動支出	620	567	705
	その他の支出	0	0	0
本体事業収支 【(a)-(b)】(c)		1,735	941	3,509
自主事業収入（d）				0
自主事業支出（e）				0
自主事業収支 【(d)-(e)】(f)		0	0	0
全体収支 【(c)+(f)】		1,735	941	3,509
備考				

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員による現地確認及びヒアリング	
実施時期	令和2年8月26日	
検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	改善済	衛生管理マニュアルが作成されていなかったが改善済み
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	改善済	情報セキュリティに関する体制が整備されていなかったが改善済み
情報公開・個人情報保護	改善済	文書管理規程が作成されていなかったが改善済み
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 指定管理者の自己評価

・新型コロナウイルス感染症の影響によりプログラムなど一部中止するものもあったが、相談は継続したため、利用者が大幅に減少することはなかった。

・プログラムや創作活動の内容を利用者とともに検討していくことで、利用者から積極的に提案してもらえることが増え、結果として利用者ニーズに合った支援につながっている。

9 所管課意見

・満足度調査のほか、日常的に施設利用者と直接対話する機会を多く設けており、ニーズに合わせた施設運営や事業実施等を意識して行っている点を評価する。

・地域住民との交流や近隣の事業所との連携等を通じて、利用者が地域と繋がる支援を積極的に行っており、高く評価できる。

10 選考委員会意見

【評価した点】

・ほのぼの運動会や緑センターやまびこ祭りの開催など地域との交流に積極的に取り組んでおり、利用者の社会参加及び障害への理解促進に貢献している。

【今後期待する点等】

・施設の立地から交通利便性等に課題はあるが、地域の障害者にとって重要な施設となっているため、通所が困難な利用者に対する支援等についても、引き続き取り組むこと。

・新型コロナウイルス感染症の対策を講じて、利用者が安心・安全に利用できるような施設運営を行うこと。

総合評価（自動判定）

B

(65/100)

